



“秋といえば”

理事長 高杉 洋史



秋という言葉から思い浮かべることは、運動会の日の昼食時に食べた、まだ緑色をした蜜柑をおいたときの香りです。何歳の時の運動会なのか覚えていないのに、蜜柑の香りのことだけ新鮮にのみがえります。

次に思い出すのが栗です。高校一年の時、栗の林というか山を所有している家の友達が栗拾いに誘ってくれました。泊まりがけでお邪魔して初めての栗拾いを経験しました。長靴でイガを開いて栗を出す技術が身につけているのはその友達のおかげです。栗拾いも面白かったのですが今から50年前のかなり山の中间とか過疎地の農家で、人家もほとんどなく、なかなか素晴らしいロケーションでした。母屋に隣接して馬小屋があり、間近に馬と接するのにも初めてでした。突然馬の顔が現れ、目が大きいことにびっくりしました。まつ毛も長いこと。その時の経験から年長さんの誕生日のバースデー乗馬の新鮮な気持ちや話してくれることに共感できます。



もう一つ秋で思い出すのは幼稚園の頃か小学生低学年のころ松茸を取りに家族で山に入ったことで。母の実家がこれまた山奥の農家で、50年前は松茸が生えていたのです。そのころは今ほど希少でもなくなたくさん収穫した覚えがあります。こうしてみると食べ物の話ばかりで恐縮です。私にとって秋といえは食欲の秋なのです。小さいころの印象的な体験というものは50年、60年経っても鮮明に思い出すものです。また美しくなる

私たちの幼稚園の教職員も子どもたちの幼稚園時代の温かい思い出になる保育をたくさんしようと思ひます。コロナウィス感染でお出掛けがしにくい今こそ幼稚園の真価が問われる時です。まずは、スポーツフェスタに向けて先生たちも張り切っています。そういえばオクテの私は運動会始め幼稚園時代のことはちっとも覚えていません。私の世代の幼稚園は一年間でしめた。かわいがってくれた先生方ごめんなさい。本園の教諭の多くは自分の幼稚園時代の担任にあこがれて幼稚園教諭になった方が多いので、きっと今の子どもたちは楽しい幼稚園の経験を積み重ねてくれることと思います。





生きていく上で必要なこと ～ゆりの樹幼稚園

職員の愛言葉より～

その3

園長 高杉 美稚子



どんな夏休みを過ごされたでしょうか？心に残る原風景が一つでもできたなら、「ご家族にとって、園児たちにとっても素晴らしい思い出の1ページになった」と思います。

幼稚園では、「コロナ禍の中ですが、今年は三年ぶりに小学生の同窓会を企画しました。残念ながら、玄海ゆりの樹幼稚園は延期になりましたが、吉塚ゆりの樹幼稚園は開催出来、久しぶりに3年生と2年生に会うことができました。この頃の成長は著しいですね。随分、身長も伸び感激しました。玄海ゆりの樹幼稚園の卒園生は、来年度、更に成長した4年生、3年生に会えることが楽しみにまりました。

そしてその時お会いしたお母様から嬉しい言葉を頂きました。「幼稚園の頃は、子育てで忙しく、巻頭言をゆくり読めなかったのですが、小学生になり、子育てで悩むことが更に増え、困り果てたところ、その答えは、すべて、巻頭言やゆりの樹幼稚園からの文章の言葉にありました。今は毎日、号泣しながら読み返しています。今、思うことは幼稚園時代によく読んでおけばよかったと悔やんでいます」とい言葉でした。

卒園した後でも、幾つになっても、子育てに遅いということはありません。「**子育ては自分育て**」なので気が付いたその時から始めればいいのです。我が子は限らない幸せと同時に結構親を鍛えてくれますから、いつか必要な時に、この巻頭言や文章が少しでも保護者の方の肩が楽になり、リフレッシュして、子育てができる手助けのヒントになるならこんな嬉しいことはありません。また頑張って文章をお届けしましょうという気持ちが高まりました。

さて、私の幼稚園での職員への口癖が愛言葉になっていった職員の愛言葉の続きを今回もお話しさせて頂きます。「**私はゆりの樹幼稚園が大好きです**」と保護者の方や職員にいつて頂くことが一番の幸せです。園児の成長はもちろんです、そのことも含めて職員が園児と共に育ち、素敵ですねと言ってもらうことが一番の喜びです。園児を育ててくれるのは先生方、その先生を育てるのが私の一番の仕事だと思っていますからです。

そんな先生方を育ててきたゆりの樹インベリッツ、ゆりの樹幼稚園の教育理念、目指す人間像、10.Eを踏まえた上での愛言葉です。

「ゆりの樹幼稚園、職員の愛言葉」

「**いいね、素敵だね、大好き！**」「**すべてだいじょうぶ**」

さて今回の愛言葉です。

「**落ち込むことは成長につながる**」

暗い穴に落ちたら、ホップ・ステップ・ジャンプ、何倍も成長を感じられる

私も失敗するたびに落ち込む子どもでした。選んだ道より、選りばなった方がよかった気がして、今の幸せに気がせず、今の現状に満足せず、後悔しなくてもいいことも後悔し、しかも、失敗の原因はすべて自分にあると、全く、しよい込んで「**どーんと落ち込む**」のが私のいつものパターンの時代が長かったですね。だから、ゆりの樹幼稚園の教育理念は、そんな私の体験から「**こんな私のような人間に育ててはいけない、どうしたら、自分も相手も信じ、足ることを知って、今あることに感謝し、自己肯定感の高い人間が育てられるかが海苔みもどになっっています。**」

既に「プロセスを大切に生きる」という題で、過去の巻頭言にそのことを書いていますが、**私の失敗のどんな無様な姿であれ、あがきながらも、そこから学び、一生懸命に生きたプロセスであるならば、その姿も見せ、その失敗を勇気をもって伝えたいので次に続く人への道になることを信じています。**

この教育理念や言葉は、長い刻々ををかけて多くの後悔と、反省と、学びの中から、再決断し、私自身の育ち直しができた。また、そのことでこれまで多くの人を育てることができたと感じるので園児だけでなく、保護者の方、職員、出会う学生さん等、ゆりの樹幼稚園と出会う方すべての方々の成長に通じるであろうし、伝えていきたいことだと思います。

落ち込むことの意味はどこにあるかと考えてみると落ち込む人ほど、実は成長願望が強いのではと私は考えています。成長したいとか、こうなりたいとかがない人はきつと、落ち込みは少ないのではないのでしょうか。なぜなら、私には、小さい頃からよく「また失敗したあ、墓穴を掘ったあ」という口癖がありました。穴の底まで落ちると、地上に出て、それからさらに上に上がると、落ち込んだおかげで、2倍、3倍成長した感じがする、この成長感や達成感を味わいたくて、落ち込むのかもしれないと考えようになってしまうんだん落ち込むことが嫌ではなくなってきました。

それから、自分に「落ち込んでいいんだよ、落ち込めば落ち込むほど、もっと成長したことがわかるから、もっと落ち込めよう、この暗い穴を脱したら、きっと、違う景色が見えることができて、必ず、違う自分が発見できて、成長できるから」と自分に言い続けている、次からは、どんなことから逆にも小さな失敗を見つけ

て、落ち込んで、あがいて、それすらも楽しんで、乗り越えていく力がついていきました。そう思えば、落ち込むことができた失敗はありがたい体験です。失敗に「ありがと」ですね。失敗してどん底に落ちてその体験から学べて「おめでとう」ですね

又、自分を傷つけて嫌だなあと思っている人にも感謝です。自分の足りないことに気づかせてくれたわけですから。そして次からその人に会うのが怖いと思うなら、小学校の頃に実験した「**リトマス試験紙**」を思い出して下さい。その人に反応したら濃いピンクになります。あまり、反応しなければ、薄いピンク、今日は大丈夫だったときは薄い水色、今日は平気で、自分から話しかけられたとなれば濃い青色です。

そして嫌な人と会うときの反応を自分で確認できるようにになると、むしろ嫌いな人ほど会いたくなります。それだけ、客観的に、自分も相手も見ることができ、冷静になれているわけです。

時に、自分が嫌っていると思う人は、実は自分とよく似ているというときもあります。自分が「あの人がまだなあ」と思う時、別の人は「自分の意見が素直に言える人だなあ」と感じるかもしれません。

その時は自分も同じようなわがままを言うから、それをわがままと感じるのであって、素直だと思っ人はその人自身が素直な人なのだと思います。だから悪口を言つときは案外、自分の事を言っているのかもしれない。**「人は鏡」**ですね。

又、逆に、持っていない素敵な性格を持っているときもつい悪口を言ってしまうます。それは妬み、嫉み、嫉妬ですね。そう思った時は、**自分が持っていない相手の素敵なところを徹底的に真似してみる**といいかもしれない。

れません。そうしているうちに回りから見ると、素敵な人に自分になっているということもあります。

人間中身はそうそう変えられません。だから型から入るのも大切です。素敵だなあと思った人の言動や行動を真似してみることから始めてみるのもいい方法だと思います。**「人生は舞台である」**という言葉もあります。素敵と思っ行動、例えば笑顔でいることを相手に気に入られようとしてすることはフリをしていることなので相手がありますから相手が「その行動が嫌なんだ」と言われれば更に落ち込みます。

そして、相手ではなく自分軸で、自分は、笑顔でいるということを決めたから、この行動を自分が取りたいから取っているの、それを嫌だといわれても私は構わないと思うことができ、揺るぎませんので落ち込むことも少なくなります。

又、「私 本当は、笑顔は苦手なの」と正直に言えば、周りの多くの人もそうで、それが言いあえた人とは本当の真実の友達「**真友**」になれる可能性はあります。そして本物の笑顔になっていきます。

一つ書いてみると、落ち込まないに越したことはありませんが落ち込みたいときはとことん落ち込んでみることも**「必要と選択」**です。「人生は思っ通りにならないから面白い」位に思っている方が面白いですね。穴は自分と静かに向き合つことが出来る絶好の場所です。静かにそこで、学んでいけば、いつの間にか、穴を脱することが出来る、**物事を高所から見で、俯瞰することが出来る冷静さが身についてくる**かもしれません。だから落ち込んでいいと思うのです。落ち込んでいる今の状態すら楽しむこともいいかもしれません。さて、次回は

「やっつけたか決めるのは自分」から始め。